

廃船同様 半年近く係留

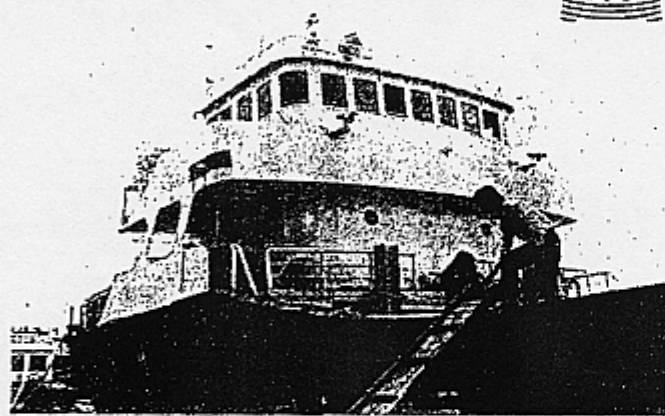
小松島港

船会社は廃棄

座礁外国船

保険会社は修理

五月に鳴門海峡で座礁し小松島港へえい航されてきた外国船が、小松島市の神田瀬川河口岸壁に廃船同様になつたまま半年近く係留されている。船主と保険会社の交渉が行き詰まっているのが原因。管理上の問題もあり、県、入国管理局、税関などが代理店を通じ船会社に撤去を要請しているが、めどは立っていない。



小松島港内に係留されたままの「グリーンフィールド」と、船内で生活する金さん＝神田瀬川河口岸壁

交渉難航 撤去はいつに...

「2次災害が心配」

乗組員1人、船内で生活

この船はパナマ船籍の貨物船「グリーンフィールド」(四九七ト)。実際の船会社は韓国ソウル市内にある。五月十二日、鳴門市龍浦湾の近くで事故のため機関室に浸水、小松島海上保安部の取り調べのため、同港までえい航されてきた。その際、大阪市内にある船会社の代理店から同港での代理業務を依頼されたアジア海運小松島出張所によると、廃棄処分したい船会社と、修理を主張する中国の保険会社との話し合いが難航。その間に、王福元船長ら十人の乗組員は、六月二十二日までに甲板員の韓

国系中国人、金光さん(五十)一人を保安要員に残して捕国。金光さんは、電気も水もない船内で寝泊まりしている。

小松島税関支署、高松入国管理局小松島港出張所は「外国貿易船や乗組員が何カ月も港内にとどまっている

ることは管理上問題がある」として、アジア海運に撤去を要請。比液や燃料漏れによる2次災害の可能性も考えられるため、港を管理する県小松島港開発事務所も、同海運を通じ交渉を急がせている。

間に立たされた同海運出張所の原公治所長は「好意で引き受けたことが思わぬ成り行きになり、迷惑を被っているのが実情。船内で長期滞在している金光さんの健康面も心配で、何か解決法はないものか」と頭を抱えている。